

【鳥取県の全体目標】 **がんになっても自分らしく生きることのできるがんとの共生社会を実現する。**

（令和10年度まで）

【中期目標】 **安心して質の高いがん相談をいつでも受けられる。**

前年度の目標	がん相談に関する普及啓発活動と各がん相談支援センターの質担保・均てん化を目指す	
	前年度Plan	前年度Act
①普及啓発 ②相談員のスキルアップ ③第4期がん対策基本計画に基づく相談支援体制の構築 ④サロン活動の再開、ピア・サポーター養成研修の企画		①広報活動を継続しがん相談支援センターの周知を図っていく。各病院の実情に合わせてリーフレットの内容を適宜修正、追加する。 ②毎年継続して質向上と部会員同士が情報共有しあえる場となるよう研修会を企画していく。 ③県内がん相談支援センター全体でライフステージに応じた相談支援を実施できるよう各施設と連携、情報共有を行っていく。 ④サロン再開に向け部会全体で解決できることはないか模索していく。部会活動としてピアサポーターへの理解、活動の場の提供、院内スタッフや患者家族への周知などを協議する。また毎年研修の継続およびフォローアップ研修の運営体制を、健康政策課とともに整えていき、部会員はスタッフの一員としてなんらかの形で研修に携わっているよう協議していく。

今年度の目標	地域でがん患者・家族を誰一人取り残さずに支える体制づくりを目指す			
	Plan(計画)	Do(実施)	Check(点検・評価)	Act(処置・改善)
①普及啓発 県内の「がん相談支援センター」の周知を図るうえで配布可能で効率的なツールを活用し、院内外への広報に役立てる。患者会を通してかかりつけの患者さんが「がん相談支援センター」の存在を知らなかったという意見も聞いており各病院での広報活動について協議し広報活動を推進する。	がん相談支援センターの広報資料（全県版がん相談支援リーフレットの改訂版）を県内医療機関等へ送付。各施設個別実施の市民公開講座等で、広報として相談支援センター広報資料配布等を実施している。	今年度も各施設へ広報資料を送付したり、研修会の場でもとりがネットのファイルを使用するなどさまざまな場面でがん相談支援センターの情報が目に入るよう広報した。ピア・サポーター養成研修でも講義内で鳥取県がん相談支援センターリーフレットを配布し周知を図った。	次年度も引き続きがん相談支援センターの存在が知られ、気軽に利用できる場となるよう広報活動に注力していく。	
②相談員のスキルアップ 部会研修会を企画し、部会員同士で情報共有、知識向上できる場を確保する。 国立がん研究センターの研修及び認定資格の受講状況を可視化し、各相談員の資格取得状況をまとめることで更新時期を失念することなく、また国立がん研究センターからの要請に対応できるように体制を整える。 鳥根県主催の中国地方地域相談支援フォーラムへ当部会も後援として参加を予定。 1/28に鳥根県とピア・サポーター養成研修等に関する情報交換会を開催予定。	部会実施予定研修会は中止とする。一方、今年度鳥根県がん相談員実務担当者主催の地域相談支援フォーラムへ当部会も後援として、当県の報告、相談員の参加動員など行う。国立がん研究センター主催研修について、R7年度は鳥大で1名基礎研修Ⅲを受講予定。県立中央病院から国立がん研究センター要請の基礎研修Ⅲファシリテーター1名、相談員指導者研修ファシリテーターとして1名参加。愛知・岡山の部会研修講師を実施予定。 中国地方地域相談支援フォーラムにて鳥取県の相談支援の実情と災害時におけるがん相談の取組等に関して報告。	令和7年度は鳥大病院で1名基礎研修Ⅲを受講した。県立中央病院から国立がん研究センターより要請の基礎研修Ⅲファシリテーター1名、相談員指導者研修ファシリテーターとして2名参加。また、愛知県、岡山県の相談支援部会のオンデマンド研修講師として県立中央病院がそれぞれ対応を行った。全国のがん相談員育成にも部会として継続的な協力を行っている。 フォーラムにはがん相談員4名が参加した。 山陰両県で、MSW, Ns., CPの多職種で相談支援に関する困りごとなどについてディスカッションを行った(20名以上が参加)。	引き続き全国のがん相談員育成のための講師・ファシリテーターの協力を行う。 今年度、中止した部会研修会は、次年度は実施予定である。 各種研修会に関して、両県の共通課題であるがん相談の実務者不足を踏まえ、可能であれば山陰両県の合同研修会等を行いたい。研修では、新たなネットワークの構築と相互学習を行い、事例・施策・運用ノウハウを共有することで、実務に活かせる解決策の選択肢を増やしたい。	
③第4期がん対策基本計画に基づく相談支援体制の構築 各施設が実施しなければならない体制の整備を確認し、他施設との状況など相互共有し、県全体で体制整備を目指す。小児・AYA世代などライフステージに応じた支援体制について各施設の現状や課題、役割分担について議論、検討する。	第4期がん対策基本計画に基づいて、特に小児・AYA世代などライフステージ別に生じやすい相談について共有し、支援体制についてメール会議を通して各施設の実情や課題について協議する。	2025/5/31の作業部会でも各施設の状況を確認し体制について協議した。小児・AYA世代への支援としては治療が拠点病院に集約化されており相談も同様の状況。	現時点では支援体制について各施設で困りごとはないことを確認したため、引き続き適宜情報共有・連携しながら各施設ごとではなく県内全体でライフステージ別の相談に対してもサポートできるよう体制を整えていく。	
④サロン活動の再開、ピア・サポーター養成研修の企画 感染対策を契機に活動休止している施設のサロンを再開できるような課題整理、対策検討など部会全体で協議する。第一回ピアサポーター養成研修報告、第二回研修実施にむけ進捗を報告し部会活動の一環として共有する。今年度のスタッフ協力を募る。	第二回ピア・サポーター養成研修開催について準備中。中部で8/23(土)、9/14(日)開催予定。ピア・サポーターの活躍の場の一つにサロン活動もあり、各施設のサロン再開の一助となるよう課題を整理し、相談員レベルで検討が難しい場合は部会や協議会を通して働きかける。	8/23(土)、9/14(日)に開催され合計11名が受講し、ピア・サポーター登録できた。昨年度登録者と合わせて合計23名の登録となった。スタッフとして部会員から6名参加し部会活動としても少しずつ根付いてきた。	毎年各圏域から申し込みがありサバイバーにとって関心の高い研修であることがわかった。すでに、西・中部で開催済みであり、東部開催を検討。昨年度の受講生との交流の場も設け、昨年以上に充実した研修になった。開催にあたりスタッフ負担が大きく課題となっているため、引き続き相談支援部会全体にスタッフ協力を働きかけていきたい。	